



と、県外や海外の方にも訪れやすい地域であると思っていますし、もっと盛り上がりたて欲しいなと思います。

—南国市について聞いてみました—
店は、交通の便があまり良くない場所にあります。地元の人が何度も来てくれたり、わざわざここまでインターネットで調べて来てくれる観光客もいます。南国市の人は非常にフレンドリーで、散歩をしているら挨拶だけでなく普通に日本語で声をかけてくれたり、畑仕事をしていると道を聞いてきたりするのでとても驚きました。以前住んでいた都会では絶対こんなことはなかった。高知の人の人柄はとても素晴らしいと感じます。



▲Instagram



▲HP

—今後の目標などを聞いてみました—
これから事業をどうしていくかはあえて目標や計画などを決めていません。私は人生は旅のようなものと考えています。自由に旅するようにこれから出会う様々な人や出来事に触れ合いながら事業を行っていきたいです。そんな意味を込めて会社の名前に、古い言葉で「(徒歩での) 旅人」を表す「Wayfarer」(ウェイフェラー)を入れました。自然の摂理に従い無理をせず、自分たちのペースで周りの人を幸せにしていきたい。そんな自分の身の丈にあったスピードで、旅するようにこれからおいしいビールを作っていきたいです。

資源があるのにつましく生かされていないように感じます。

例えば、これからインバウンド需要も多くなると思いますが、外国語の情報がとても少ないです。地域の方や役所と協力して外国語の飲み歩きマップや散策マップなど作成すれば、もっとたくさんの外国人観光客が来ると思います。

南国市は、山や海、空港と高速道路もあり、とても魅力的な土地です。アイデア次第でもっと住みやすい、観光しやすい場所になるんじゃないかなと思います。



▲古い言葉で「(徒歩での) 旅人」を表す「Wayfarer」

広報委員の感想①

自分たちのペースで無理せず、しかしバイタリティとアイデアとセンスに満ちた素晴らしい夫婦。人間味豊かな性格がクラフトビールのおいしさや深みにもつながっていると思いました。同じ高知県人として、私もできることをして周りの人を幸せにしたいと思いました。

また、ビールを飲みに来るだけでなくご夫婦とお話するために訪れてみたいです。

広報委員の感想②

今回のお店は入り口より日常とは少し違っ



た雰囲気であり、ただ歩いているだけではたどり着けません。少し迷子になったり、立ち止まる事など着けるお店なのかも。

そして、店内も静かで何だか居心地がよくクラフトビールをのんびりと楽しむもよし。またはお二人との会話を供に楽しむよし。

ここで、酒の飲めない自分にはクラフトビールもよいが、お勤めのクラフトジンジャーエールがとてもおいしく、飲み過ぎ注意！の一品です。

お互いの時間や家族を大事に思う、お二人が作るクラフトビールのお店に一度来店してみてもどうでしょう。南国市、まだまだ面白くて、おいしい物が増えそうですね。皆さんも、のんびりと南国を散歩『ウェイフェラー』してみてください。



ウェイフェラー ブルーイング カンパニー

FILE 1

Wayfarer Brewing Company 取材レポート

まほろばの庭から

南国市にあったよ。
クラフトビールと
イチゴ農園



今回の広報委員会は、県外から国府地区に移住し新しく事業を始めたご夫婦取材し、南国市に移住して良かったことや苦労したことなどをお聞きしました。

2021年に高知に移住し、南国市国分でクラフトビール造りを始め、今年4月にクラフトビール販売所「Wayfarer Brewing Company」をオープンしたボイド・マット・由貴さんご夫妻を訪ねました。

ビール作りできる場所を求めて

今回は南国市出身の由貴さんとオーストラリア出身のマットさんのご夫妻がクラフトビールの製造販売を行っているお店です。お店は決して目立つ感じではありませんが、店舗も店内もシックで良い雰囲気、時間を忘れて居座りそうになりました。

マットさんは昔からビール好きで、学生の時からビール作りの研究もしていたそうです。千葉県で10年以上仕事を続けながら、ビール製造販売への夢を叶えるため、高知県へと2年半前から移住しました。

いざ製造販売に向けて高知県で各市町村を回り物件を探しましたが条件が合わず、そこで奥さんの実家で工場がある南国市へやってきました。ここで改めて、製造に向けてさまざまな条件をクリアして、今年からの営業開始となりました。夫婦のモットーは「家族で無理せず始める！」だそうです。

ビールの材料であるホップの一部も、南国市で栽培しており、地産地消ならぬ『市産市消』とも言えるお店となっています。

クラフトビールを作ろうと思ったきっかけはなんですか？

大学時クラフトビール研究所にいました。その頃からビールが好きでよく醸造を繰り返して仲間と共に楽しんでいました。

また、オーストラリアでは自分たちで工夫して何かを作る(クラフトする)ことが日常的に行われていて、今の工場で使用している機械やイートスペースで手作りにこだわっていることも、その一部です。イートスペースは9割が妻のセンスですが(笑)



▲ホップも自分たちで作るマットさん



▲収穫したホップ

工場を立ち上げるにあたって大変だったことはなんですか？

高知で事業を始めることは最初から決めていて、良さそうな空き物件を探していました。香南市、香美市、四万十市などたくさん物件に視察に行ったり、役所と何度も何度も交渉を重ねたりしましたが、生産量や取引先との契約内容、醸造工場などの立地条件が厳しく、なかなかクリアできる施設がなく時間だけが過ぎていきました。

オープン後、嬉しかったことはありますか？

高知の温かい人柄に触れたことです。僕は外国人で明らかに地元の人ではないように見えるのに、誰でも気さくに話しかけてくれます。

家族もよく来るのですが、特に父が高知を気に入ってすぐに仲良くなって人を連れて来ます(笑)

また、地元の方々が店によく来てくれていて、なんと90代の方もいるんです。さらに、地元の方と県外の方との交流の場になっていることがとても嬉しいです。

国府は、南国市の陸の玄関口の近くでもあります。市内や県内の方はもちろんのこ



▲醸造室で10時間以上作業することもあるそうです

最後のダメ元で、元実家が使っていた工場の現在の持ち主にそれとなく相談したところ、使っていなかった倉庫部分を快く使わせていただくことになりました。

醸造工場を新たに作ることは条件が大変厳しいと知っていましたが、ここまで時間がかかることになるとは思っていなかった。で、本当に大変でした。